

センターだより

平成26年11月1日

NO.51

東濃西部少年センター TEL 23-3455 FAX 26-8813

内 容

岐阜県優良指導員表彰	p1
土岐市教育長 山田恭正	p2
東濃子ども相談センター所長 小倉達也	p3
東濃フロンティア高校長 西尾学	p4~p5
コミュニティ等防犯協会長 荒木康夫	p6
少年センター	p7~p8

11月 みんなで築く 地域の未来

11月は、全国「子ども・若者育成支援強調月間」です。



すすき

センター職員

所 長	宮 嶋 昌 治
指導主任	坂 井 正 昭
事務担当	柴 田 弥 生

平成26年度岐阜県優良指導員表彰

平成26年11月9日(土)に「恵那文化センター」において開催される「岐阜県青少年健全育成県民大会」において、多年に渡り青少年の指導活動にご尽力されました東濃西部少年センター少年指導員下記3名の方が、表彰されます。これまで多年にわたり少年指導員として精励し実績をあげられたこと、心より敬意を表します。受賞、誠におめでとうございます。これからも子供・若者の育成支援をよろしくお願いいたします。

3名の表彰される方々です。受賞おめでとうございます

岐阜県生活環境部長表彰(10年以上精励)

同

青少年健全育成県民会議会長表彰(5年以上精励)

高綱 紳介様(瑞浪地区)

稲垣登代子様(瑞浪地区)

林 康治郎様(多治見地区)

言葉でつながる

土岐市教育委員会
教育長 山田 恭正

毎月発行される「センター月だより」を読ませていただいておりますが、指導員の皆様には、青少年への声かけ活動にご尽力いただき、本当にありがとうございます。この活動は長年続けられていますが、一昨年度までは「街頭指導」といっていたものを平成25年度から、全ての子どもや若者の健全な育成を願う指導に軸足を置く「声かけ活動」に統一されたと聞いております。今日の子どもたちを取り巻く環境は、どんどん変化しています。しかし、どんなに時代が変わっても、人が生きていくうえで、人と人のつながりは不可欠です。そのつながりを生む手段の一つが挨拶であり、言葉（声）かけだと思っております。



挨拶には、自分の方から近付いていって相手の心の扉を「押し開く」という意味があるそうです。また「自ら進んで、相手が誰であろうと自分から明るく元気な声で挨拶をすることによって、その人との人間関係は円滑なものになっていく～このことをできる人は、人間として器の大きな人である」とある本に書かれていました。指導員さん方のように、私たち大人がもっと気軽に挨拶や言葉かけを行い、青少年の心の扉を「押し開く」ことが、健全な青少年育成につながっていくと思います。

また、一生懸命取り組んだことに対して、「よくやったね」「頑張ったね」などと声を掛けられるととても嬉しいときがあります。「手を貸しましょうか」「何かお手伝いしましょうか」、何気なく掛けられた言葉にとっても安心感を覚えることもあります。このことは子どもや若者でも同じことだと思えます。

温かい「絆」で結ばれる人と人との関わりの中に、挨拶や言葉が交わされていきます。私たち大人が、当たり前前に挨拶や声かけができるということを、子どもたちに模範として示さなければなりません。私たち大人の振る舞いを子どもや若者はどこかで見ています。すべての人が「ありがとう」「こんにちは」「気を付けてね」と、当り前の言葉として家族や出会う人々に笑顔で交わせるような人間関係ができていけばと願っております。

今後とも青少年の健全な育成のため、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

「どうせ」「やっぱり」で終わらせないために

東濃子ども相談センター
所長 小倉達也

傷つき体験を重ね非行に走ったり、家庭内で暴れたりする子どもと面接していて「どうしてそのようなことをしたのか？」など核心に近づく問いかけをすると子どもに「(どうせ俺が悪いと思ってるんだろ?)」というオーラが現れ、受け答えも投げやりになります。面接者として「いや、そうではなくて」と話を続けようとしても、「関係ねえし」と不貞腐れ、まるでこちらに問題があるかのような態度につい「そんな風だから、こんなことになるのでは？」などと口走ると「(ほら)やっぱり(俺が悪いと思ってるんだ。)」とシャットアウトしてしまい、以後充分話が聞けず後味の悪いまま面接が終了します。

後でよく考えると、本人から色々聞き出すため信頼関係を作ろうと受容的に関わるものの、最終的には「色々事情があることはわかったけど、だからといってそんな悪いことをしてはダメだよな。」という文句で締めようとしていた自分に気が付きます。「色々な事情」と「そんな悪いこと」が繋がっておらず、やはり「あなた」が悪いと知っているのです。彼(彼女)の「どうせ」と「やっぱり」は当たっているのです。

当時、釈然としない気持ちで振り返りながら、次のような考えに至りました。

自分達の相談援助の相手は子どもであり、法律上の規定はあっても一般的には大人同様の責任能力は問えない、よって行為そのものの非難で終わらせてはいけないのではないかと。やってしまった悪いことを時間軸に沿って辿ると必ず大人の責任に帰すべきこととつながっている。そのような視点でみた場合、子どもは「どうしてそんなことをしたのか？」という動機を尋ねるべき行為の主体というより、「どうしてそういう(形式的な)責任を負わされることになったのか？」という問いを解くための証言をしてくれる当事者ではないかと。

実際、このような心持ちで面接に臨むと、悪いことの背景にある色々な事情の方に目がいき、一人「うーん」と唸りながら考えを巡らせることになりませんが、そんな自分に「何悩んでんの？」とからかい気味に声をかけてくる子どもから「どうせ」「やっぱり」オーラは感じられなくなっています。



高校生の成長と家庭・学校・地域社会

東濃フロンティア高等学校
学校長 西尾 学

東濃フロンティア高校は開校して11年目になります。
どんな学校かはまだ知られていない方もおられるので、簡単に説明させていただきます。



また、本校の生徒を知れば現在の高校の生徒指導の課題も見えてくるのではないかと考えています。

県下にフロンティアと名の付く高校は、岐阜市の華陽フロンティア高校と2つだけです。3部制・単位制・定時制の普通科高校であり、特徴の1つは部(8:40~)、部(10:30~)、部(15:15~)と授業時間が異なること、もう一つは「学び直しができる教科」を選択でき、ゆっくりと納得できるまでフォローし

てもらえることです。そのために、選択科目を多くし、ほとんどを少人数(20人以下)での授業としています。また、教育相談係を中心に、担任が生徒一人一人の事情に応じて丁寧に対応し、教師や保護者にも話せないことにはスクールカウンセラー2人とソーシャルスキルワーカー1人が第三者の立場で関わり、進路相談にも専門家に1人来ていただくなど、手厚い体制を整えています。

この特色に期待して、遠くは加茂郡白川や中津川市加子母からの入学生もいます。不登校を経験して授業に遅れたため学び直したい、あるいは何とか普通に通学して卒業したいと考える生徒が約半数。一度高校をあきらめて社会へ出たがもう一度学ぶ必要性を実感して入学する生徒や普通授業のスピードについていくのは難しいからゆっくり学びたいという生徒もいます。まさに、このような生徒のために準備された学校です。

そういう中で、最初に問題として浮かび上がってくるのは目的のない生徒たちです。学力的にここなら行けるから(中学校でそういう指導をしていないことは知っていますが、生徒はそう言い訳をします)、とりあえず高卒の資格だけはほしいから、などという漠然とした動機の生徒の多くは、“こんなところ(学校)だと思わなかった” “もっと自由だと思った” という声を発するようになります。そして、その一部の生徒は不登校・進路変更の方向へ、また他の生徒はおもしろくない授業の妨害をしたりストレス解消のように他の生徒の嫌がらせ行為の方向へと進み、どちらも指導に手が掛かるようになります。いわゆる“居場所”がなくなるのです。

「学び直したい」「再チャレンジしたい」生徒への手厚い支援をする体制を準備していますが、それは教員の負担増を覚悟で一人一人の生徒に対応しています。そこに目的に合わない生徒が迷惑行為を始めると、何とかしてあげたいが十分な対応ができないのが現状です。パンパンに膨らんだ風船にさらに空気を入れようとしているようです。

現状を嘆いていても進展がないので、私たちはやれる限りのことは行動していますが、学校の中だけでは限界があると感じています。そんな中、地域の活動に参加する生徒を見ていて気づいたことがあります。今までの学校で、さまざまなボランティアや地域活動に参加している子どもたちが、周囲の大人の働きかけにより心の成長を遂げている場面を多く見てきました。高齢者施設のボランティアや実習で、利用者の笑顔と“ありがとう”という感謝の言葉に接して人を大切にすることを学んだり、ボランティア活動で大人と話すうちにコミュニケーション力がつき、自分の思いが伝わることでストレスが減り落ち着き、主体的に動くようになっていたりする生徒などです。

進学など将来の目標を見つけれない子どもたちは、地域活動・ボランティアなど社会参加の機会の中で、自分を発見することがよくあることは、経験的にわかっています。本校では専門校ではないので実習などが難しいのですが、機会ある毎に、生徒が地域社会に出て活動するように勧めています。本校は定時制なのでアルバイトも積極的に勧めています。なかなか成果が上がりませんが、地域の大人と挨拶から始めて会話ができるように話しています。

大人との関わりの中で子どもたち自らの手で“居場所”づくりができる力をつけてくれることを願っています。

最後に、自分の子どもでなくても子どもたちに関わっていただいている保護者や地域の方々には本当に感謝と敬意を申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



ボランティア活動

コンビニ業界について、少しお話をさせていただきます。

コンビニエンスストア等防犯協会
会長 荒木 康夫

現在日本の、コンビニ店舗数は、5万店舗を超えております。此れからの、大手出店数を見ると、近いうちに6万店舗になるのは確実です。今現在東濃3市のコンビニ数は、多治見市40店舗、土岐市23店舗、瑞浪市17店舗、合計80店舗あります。近いうちに100店舗を超えることは確実と思われま

す。地域にとってコンビニとは、スーパーまで行けない方々への食料品の配達及び販売、手軽に食べられる食料品の販売、子供達にとって110番の家、防犯カメラによる犯罪の抑止及び防犯ビデオの提供による警察への協力、タクシーの待機場所、町内行事の為の観光バスや車の待機場所、子供たちの集合場所、災害時の一時避難場所、地域の方々の宅配商品の一時預かり場所、ATMによる入出金、また、一部地域では市役所の出先業務など、あらゆる面で地域の方々と協力体制が築ければと思っています。

話は変わりますが、昔子供が、夜の9時、10時になっても家に帰ってこなければ、家族が捜しに店にもよく来て見えました。また、高校生の話ですが、クラブの先輩に命令されて万引きをしたとの事、この件は家族が気付いて子供をつれてあやまりに見えました。これが当たり前のことですが、たまに家族とし



ての対応に問題のある場合が有ります。例えば小学生の場合は、子供にお金を渡していないのに何かを食べていたり、高価なものを持っていけば、家族は不信に思っ

て当たり前です。しかしながら、万引きをした子を補導した時、家族が来て言われた言葉に「ここにコンビニが在るからいけない」、「うちの子供を店に入れないでほしい」、また「商品を盗みやすいように置いてあるのがいけない」と抗議されることがあります。言うまでもなくこれらの抗議は的外れです。人として悪いことをした場合には、謝罪し反省しなければなりません。子供を社会的な責任主体として育てる事が第一に必要です。子供は未熟だから罪を犯すかも知れないという前提に立ち、子供に対して犯罪を日常的に否定し、仮に過ちを犯した場合、注意し二度としない様にさせなければなりません。

私は万引きをした子供の家族には次のようにお話をしています。「この機会に更生すれば将来の為に良い事です。しかし、発覚せずに終わってしまった場合には、子供の将来にとって無限の不安が残ることになります」と何時も言ってきました

最後に、高校生のMSリーダーズの活躍は、これからとても楽しみにしております。コンビニ協会では何かお手伝い出来ることは無いかと事務局とも相談しております。

平成26年度三地区合同研修会

東濃西部少年センター

本年度の三地区合同研修会は、67名の参加者で昨年度と同様、講演と分散会という二つの内容で実施しました。

まず、講師を岐阜県精神保健福祉協会教育家庭部会専門委員西山史子先生にお願いした経緯を説明します。東濃西部少年センターと講師の西山史子先生との出会いは、今年6月に穂積市で開催されました「平成26年度青少年育成県民会議総会」での西山先生の講演でした。西山先生の講演を聴き終わった時、このお話は、日頃、若者達と「声かけ活動」で関わって見える少年指導員さん方にとって、きっと役立つ、参考になると考え、すぐに三地区合同研修会の講師にとお願いをしたところ、快く承諾をしていただき、決定しました。

三地区合同研修会の講演では、私たちが、常に若者に対して抱く悩み、“自分の感情をうまくことばにできない若者達、そのような若者の言動の背後にある気持ちを理解するために、私たちは、どのようなことを大切にし、どのようなことばかけをこころがければいいのでしょうか”ということについて、豊富な実践に裏付けられた、具体的で示唆に富んだお話をお聴きできました。お話の中で、若者が、自分の感情をことばにできない例として、「・・・」沈黙、「うぜえ!」「死ね!」挑発的なことば、「何でおればっか」バリアをはることば、などをあげられました。これらのことばは、感情を表すサインであり、私たちは の場合はゆとりを持って待ってやり、 の場合は1クッション2クッション、 の場合は間を置く、などの対応で若者の発したことばに巻き込まれることなく視点を変え、ことばかけをしていく大切さを話していただきました。また、私たち大人にできる「ことばかけ」の一つに、若者に対して素直に、「やあ!また会ったね」、「はやく帰れよ」、「おはよう」、「おつかれさま」、「いい顔してるね」、「おやすみ」、「がんばってるね」、「元気でね」など、ありのままのことばかけが、こころに届くきっかけになることも話していただきました。

後半の分散会では、10班に分かれて日頃の「声かけ活動」について情報交流をする場を設けました。・子供から先に声かけしてくれてうれしかった。・声をかけることによってコミュニケーションがとれている。・小学生の下校時に声をかけると気持ちの良い返事が返って来る。などの成果や・強面の高校生がいると声をかけづらい。・声かけのタイミングがわからない。・バイクの少年には声かけができない。などの悩みも出されました。今後に向けて・上から目線で話をしないようにしたい。・見守られているというのがわかってもらえるような声かけをおこなうようにしたい。などの意見もだされ終わりました。



平成26年度上半期 東濃西部少年センター 声かけ活動の実施状況

(1) 月別の声かけ状況

(単位:人)

区分	年別	4月	5月	6月	7月	8月	夏休み夜間 特別活動	9月	上半期計	
指導日数	25年度	20	9	17	19	18	18	18	119	
	26年度	16	17	17	20	18	17	18	123	
活動回数	25年度	31	29	34	35	34	31	34	228	
	26年度	32	32	34	33	30	31	35	227	
活動人数	25年度	109	125	157	148	143	141	140	963	
	26年度	122	148	158	150	122	143	142	985	
	多治見	25年度	54	71	78	74	66	62	71	476
		26年度	62	71	79	68	57	68	61	466
	瑞浪	25年度	27	34	35	34	34	34	30	228
		26年度	31	30	33	34	36	36	35	235
土岐	25年度	28	20	44	40	43	45	39	259	
	26年度	29	47	46	48	29	39	46	284	
指導人数	25年度	4	17	33	5	7	15	20	101	
	26年度	12	14	10	11	0	1	5	53	
	男子	25年度	4	13	25	2	3	13	12	72
		26年度	12	14	9	11	0	1	5	52
	女子	25年度	0	4	8	3	4	2	8	29
		26年度	0	0	1	0	0	0	0	1

(2) 行為別の指導状況

(単位:人)

年度別 男女別		行為別																	合計			
		飲酒	喫煙	薬物乱用	粗暴行為	刃物等所持	金品不正要求	金品持ち出し	性的いたづら	暴走行為	家出	無断外泊	深夜はいかい	怠学	不健全性的行為	不良交友	不健全娯楽	1 危険な遊び		その他	2 自転車関連違反等	3 迷惑行為
年度別	25年上半期	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	14	71	29	42	101
	26年上半期	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	32	18	14	53
男子	25年上半期	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	48	23	25	72
	26年上半期	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	31	17	14	52
女子	25年上半期	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	23	6	17	29
	26年上半期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1

- 小学生による道路上でのキックボード等の遊び、公園等での危険な行為等。
- 小中学生のヘルメット無し、危険走行。高校生の夜間無灯火、危険走行等。
- 駅前 駅売店 駅トイレ・コンビニ等にて、たむろ・居座り・飲食等の行為。

(3) 学職別の指導状況

(単位:人)

年度別 男女別		学職別							合計
		小学生	中学生	高校生	大学生	未就学児	各種学校	有職少年	
年度別	25年上半期	12	12	44	0	0	0	33	101
	26年上半期	15	7	10	0	0	0	21	53
男子	25年上半期	10	9	31	0	0	0	22	72
	26年上半期	14	7	10	0	0	0	21	52
女子	25年上半期	2	3	13	0	0	0	11	29
	26年上半期	1	0	0	0	0	0	0	1

指導人数は、前年度と比べ減っています。とくに悪質な指導事例もありません。ただ、私たちの目につかないところに隠れてしまっているかも知れません。今後も、子どもたちや若者たちの行動を見守り、声かけ活動を継続し、子どもたちとの人間関係を深めていきましょう。